

## ■世界：世界気象機関、2017年も極端な気候が続くと予想

世界気象機関（WMO）は2017年3月21日、異常気象に関する年報を発表した。同報告書では、「地球温暖化の影響による異常な気象により、地球は『真に未知の領域』に入った」としている。また、「2016年はこれまでで最も暑い年となり、工業革命前より1.1℃、2015年より0.06℃高くなった。この気温上昇は、他の気象事象の変化とも一致している。世界の平均海面温度もこれまでで最も高く、海面水位も上昇を続けている。北極の海氷面の面積は、2016年のほとんどの期間で平均よりはるかに小さくなった。2015・2016年の強力なエルニーニョ現象は気象に大きな影響を与え、これに人為的変動が重なると、生活と自然環境への影響がより深刻になる可能性があることが確認された。2016年には、アフリカ南部・東部と中央アメリカでは深刻な干ばつとなり、農業生産に大きな影響を及ぼした。ハリケーン・マシュー（Matthew）はハイチと米国に大きな被害をもたらし、東アジアと南アジアでは大雨と洪水が発生した。さらに、海洋の食物連鎖、生態系および漁業に重要な影響を与え、多くの熱帯域では珊瑚の白化現象と死滅が報告されている。これらのことから、大気中の二酸化炭素の平均濃度（年間）が400ppmを超えると、人間の活動が気候システムに影響を及ぼすことが益々明らかになってきており、極端な天候、特に熱波の原因特定に関する研究によって実証されるようになってきている」としている。